

施策14

快適な生活環境の維持と循環型社会の構築

(全 20 事務事業)

施策14. 快適な生活環境の維持と循環型社会の構築

● 施策評価表

● 事務事業評価表

掲載開始
ページ

1. 北筑昇華苑葬祭業使用料助成事業	(健康課)	1
2. 桜丘下水道処理施設跡地管理事業	(生活安全課)	3
3. 動物愛護事業	(生活安全課)	5
4. 環境調査事業	(生活安全課)	7
5. 町内清掃事業	(生活安全課)	9
6. 生活環境監視事業	(生活安全課)	11
7. 焼却場跡地周辺環境整備事業	(生活安全課)	13
8. 吉原地域活性化委員会運営事業	(生活安全課)	15
9. 空き地等草刈り事業	(生活安全課)	17
10. 宇美町・志免町衛生施設組合運営事業	(生活安全課)	19
11. ごみ処理事業	(生活安全課)	21
12. ごみ減量化推進事業	(生活安全課)	23
13. 資源回収推進事業	(生活安全課)	25
14. 地球温暖化対策事業	(生活安全課)	27
15. 道路違法広告物撤去事業	(都市整備課)	29
16. 緑化推進事業	(都市整備課)	31
17. 片峰山緑地保存事業	(都市整備課)	33
18. 緑地保全会支援事業	(都市整備課)	35
19. 河川美化活動団体支援事業	(都市整備課)	37
20. 森林環境譲与税活用事業	(都市整備課)	39

施策評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)			前期基本計画期間 <<令和3年度~7年度>>	
体 総 合 計 系 画	基本目標	5. 環境にやさしく快適に暮らせるまち	施策統括課	生活安全課
	施策	14. 快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	関係課	都市整備課

1. 施策の成果指標の達成度

成果指標 (関連する町の取り組むべきこと)	単位	基準値	R5目標値	実績値の年次推移	判定
		目標の方向性	R5実績値		
町の環境衛生について、特に気になることがない町民の割合	%	28.4	33.2		a
14-1		↗	33.2		
町民一人1日当たりのごみ(燃やせるごみ)の排出量	g (グラム)	626	626		a
14-2		→	614		
1年間の資源回収量	t (トン)	822	822		c
14-3		→	555		
自然環境保護活動を行っている町民の割合	%	10.4	10.4		c
14-4		→	9.7		

達成度:a…目標を達成している、b…目標をわずかに達成していない、c…目標を達成していない

2. 町が取り組むべきことの実施状況と方向性

14-1 マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する	所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 美化活動の促進とペットの飼い主へのマナー啓発 33位 / 53位	生活安全課

町が取り組むべきこと①	生活環境被害を軽減させるため、野良猫への無責任な餌やりに対して適切に指導するとともに、地域猫活動支援事業による不妊去勢手術を実施するなどの取組を推進します。
主な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・野良猫への無責任な餌やりに関しては、直接指導や助言(室内飼、地域猫への移行等)をはじめ、広報紙、環境監視作業員による巡回広報等により啓発を行った。また併せて『猫よけセンサー』の貸出を行い被害軽減を図った。 ・地域猫活動団体へ不妊去勢手術に対しての手術券を交付し、支援拡充のため、地域猫活動支援事業実施要綱の改正(ワクチン接種、ウイルス検査、個人でも活動を実施できる等)を行い、活動者の負担軽減を図り、活動を行いやすい環境づくりを行った。
課題	・自己中心的な野良猫への餌やりが後を絶たず、繁殖の要因となっている。
R7年度取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域猫活動支援事業実施要綱に基づき、今後も活動を長く続けられる環境を整える。 ・繁殖を防止生活環境被害の軽減を図るため、多くの野良猫に不妊去勢手術、譲渡の機会を与える。 ・自己中心的な餌やりについては、粘り強く指導及び助言を行うとともに、『猫よけセンサー』の貸出を行う。
町が取り組むべきこと②	町内一斉清掃により、自分たちのまちは自分たちできれいにするという、環境美化に対する意識を向上させます。
主な取り組み状況	・町民に周知はもとより、事業所にも本格的に依頼を行い、町内一斉清掃を春と秋の2回実施した。
課題	・事業所は日頃から実施しているところが多く、一斉清掃時に参加するところが少ない。
R7年度取り組み方針	・自分たちのまちは自分たちできれいにするという、住民の環境美化・保全に対する意識の向上のため、今後も町内一斉清掃を春と秋の年2回実施する。引き続き、事業所にも参加を呼びかける。
町が取り組むべきこと③	環境監視員を効果的に活用し、不法投棄、野焼き、ペットの糞害などの生活環境に関する問題に対する啓発や指導を行います。
主な取り組み状況	・不法投棄、野焼き、ペットのふん害など生活環境に関する問題に対応するため、環境監視作業員による巡回、啓発及び指導を行った。また、『志免町ごみ分別アプリ等』を用いて野焼き等の注意喚起を行った。
課題	・不法投棄、野焼き、ペットのふん害に対する苦情が日常的に寄せられている。
R7年度取り組み方針	・引き続き、環境監視作業員を効果的に活用し、不法投棄、野焼き、ペットの糞害などの生活環境に関する問題に対する啓発や指導を行う。
町が取り組むべきことの達成状況	
<input checked="" type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どおりの成果をあげている <input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない <input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない	

構成する事務事業(評価対象事業のみ)									
番号	事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価		
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度	施策評価での方向性
	担当課	会計区分		R4 決算	R5 決算	R6 予算			
1	北筑昇華苑葬祭場使用料助成事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	9,073	8,173	8,609			
			合計	9,073	8,173	8,609	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
健康課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.04	0.02	0.10				
2	桜丘下水処理施設跡地管理事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	1,493	1,500	1,540			
			合計	1,493	1,500	1,540	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.11	0.11	0.09				
3	動物愛護事業		特定財源	1,434	2,658	3,499	D	D	
			一般財源	0	0	0			
			合計	1,434	2,658	3,499	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.48	0.81	0.80				
4	環境調査事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	1,065	1,081	1,328			
			合計	1,065	1,081	1,328	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.10	0.10	0.12				
5	町内清掃事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	2,915	2,987	4,015			
			合計	2,915	2,987	4,015	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.49	0.47	0.59				
6	生活環境監視事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	3,250	3,454	4,401			
			合計	3,250	3,454	4,401	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)	(3,163)	(3,454)	(4,401)			
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.24	0.24	0.23				
7	焼却場跡地周辺環境整備事業		特定財源	1,494	1,116	1,548	D	D	
			一般財源	0	0	0			
			合計	1,494	1,116	1,548	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.02	0.02	0.02				
8	吉原地域活性化委員会運営事業		特定財源	5,463	128,918	0	-	-	
			一般財源	0	11,018	0			
			合計	5,463	139,936	0	休止・廃止済	-	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.79	1.01	0.00				
9	空き地等草刈事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	0	0	0			
			合計	0	0	0	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.25	0.20	0.21				
10	道路違法広告物撤去事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	396	407	0			
			合計	396	407	0	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
都市整備課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.01	0.01	0				
11	緑化推進事業		特定財源	0	0	0	D	D	
			一般財源	8,761	9,255	10,519			
			合計	8,761	9,255	10,519	成果・費用とも維持	成果・費用とも維持	
			(内 会計年度任用職員人件費)						
都市整備課 一般会計		関与 正職員数(人)	0.15	0.31	0.05				

町が取り組むべきことを構成する事業の方向性		
ビルド	新規事業の方向性や内容	なし
	拡充事業の方向性や内容	なし
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし
	縮小事業の方向性や内容	なし
R7年度の町が取り組むべきことの方向性		<input type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input checked="" type="checkbox"/> 維持

14-2 ごみを適切に収集して処理する	所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) ごみを適切に収集して処理する体制の確保 15位 / 2位	生活安全課

町が取り組むべきこと①	ごみの出し方や分別の仕方などが徹底されるよう、広報誌や町のホームページなどを利用して啓発します。
主な取り組み状況	・全世帯に配布しているごみ出しカレンダーで、分別する種類毎に主なごみを表記し、適正にごみを排出するよう周知を行った。 ・「志免町ごみ分別アプリ」を推進するため、広報紙、ごみカレンダー、家庭用ごみ袋等に登録掲載を行った。
課題	・ごみの不分別により集積所にごみが残っていることがある。 ・事業用のごみ袋には産業廃棄物が混入しているものが見られる。
R7年度取り組み方針	・ごみ減量化と資源化のため、「志免町ごみ分別アプリ」の登録を推進し、併せて4R(リフューズ:断る、リデュース:減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再資源化する)活動を推進する。 ・事業所には、一般廃棄物と産業廃棄物の区別を徹底してもらい、適切な処理について周知し、ごみ減量を行う。

町が取り組むべきこと②	家庭や事業所から出るごみを収集、運搬する方法や選別、処理する施設などのごみを適切に処理する体制を安定的かつ継続的に確保します。
主な取り組み状況	・町内から出るごみの収集、運搬、処理を可燃ごみは篠栗町のごみ燃料化(RDF)施設クリーンパークわかすぎに搬入し、不燃ごみについては、宇美・志免リサイクルセンターに搬入し、安定的に継続的に行った。
課題	なし
R7年度取り組み方針	・令和5年度以降の可燃ごみの処理方針に基づき、引き続き、家庭や事業所から出るごみを収集、運搬する方法や選別、処理する施設などのごみを適切に処理する体制を安定的かつ継続的に確保していく。

町が取り組むべきことの達成状況

- 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どおりの成果をあげている
- 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない
- 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない

構成する事務事業(評価対象事業のみ)

番号	事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価		
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度	施策評価での方向性
	担当課	会計区分		R4 決算	R5 決算	R6 予算			
1	宇美町・志免町衛生施設組合運営事業		特定財源	0	0	0	D	-	D 成果・費用とも維持
			一般財源	190,474	197,157	194,284	成果・費用とも維持		
			合計	190,474	197,157	194,284			
			(内 会計年度任用職員人件費)						
	生活安全課	一般会計	関与 正職員数(人)	0.24	0.26	0.35			
2	ごみ処理事業		特定財源	165,662	163,651	164,634	D	○	D 成果・費用とも維持
			一般財源	600,303	680,338	767,277	成果・費用とも維持		
			合計	765,966	843,989	931,911			
			(内 会計年度任用職員人件費)	(2,303)	(2,294)	(2,830)			
	生活安全課	一般会計	関与 正職員数(人)	1.15	1.00	1.35			

町が取り組むべきことを構成する事業の方向性		
ビルド	新規事業の方向性や内容	なし
	拡充事業の方向性や内容	なし
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし
	縮小事業の方向性や内容	なし
R7年度の町が取り組むべきことの方向性		<input type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input checked="" type="checkbox"/> 維持

14-3 地球温暖化防止と資源の有効利用を進める	所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 地球温暖化対策と資源の有効活用 34位 / 14位	生活安全課

町が取り組むべきこと①	「地球温暖化対策推進法」に基づいた、温室効果ガス排出量削減のため、地球温暖化対策を行います。
主な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・志免町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づき、再生可能エネルギーの導入(志免東保育園(新築)への太陽光発電システム)及び省エネルギーの導入(青色防犯パトロールカー(EV)、志免町総合公園野球場のナイター照明(LED))、スマートムーブ(オンデマンドバス『のーと志免』の運行、シェアサイクル『チャリチャリ』の設置)、吸収源の取組として、県産材等の使用(成和公民館、第2分団格納庫、弓道場、志免東保育園)を行った。 ・町全体の計画である、志免町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・町民や事業所の意識や行動変容を把握できていない。 ・省エネや再生可能エネルギーの導入費用は高額となる。
R7年度取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・『志免町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)』に基づき、具体的な取組内容を推し進めて行き、町民・事業所・行政が一体となった地域脱炭素を加速化させ、地域課題と脱炭素を同時に解決する。 ・『志免町気候変動適応計画』に基づき、適応策として、熱中症対策兼ペットボトル削減に伴う脱炭素をねらい、『マイボトル型のウォーターサーバー(給水スポット)』を庁舎等に設置する。
町が取り組むべきこと②	「食品ロスの削減の推進に関する法律」に基づいた、ごみ減量のため、食品ロスの削減対策を行います。
主な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・販売期限の迫った商品を積極的に選び、購買行動を促す『てまえどり』のポップによる食品ロス削減啓発を拡充し、町内の31店舗の小売店へ掲示した。 ・10月の食品ロス削減月間、食品ロス削減の日に合わせて、広報紙で特集を組み、併せて『志免町ごみ分別アプリ』等で、住民へ周知し、食品ロス削減の取組について啓発を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・『てまえどり』ポップによる掲示を町内の小売店に依頼しているが、店舗によっては設置の継続性がない。
R7年度取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・『てまえどり』のポップによる食品ロス削減啓発を行うために、引き続き志免町商工会と連携し、町内店舗に配置増加を行う。
町が取り組むべきこと③	ごみの減量化と資源化を推進するため、4R活動を推進します。
主な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の3R推進月間に合わせ、広報紙で特集を組み、併せて『志免町ごみ分別アプリ』等で、町で推進している『4R(リフューズ:断る、リデュース:減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再資源化する)』運動を推進した。 ・子どもたちの環境作品展をシーメイトエントランスホールで実施し、大変盛況となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体が行う資源回収量が団体の負担増、資源買い取り金額の低下等の理由により減少している。 ・資源回収制度が機能しない事で、ごみの増加、温室効果ガス排出量の増加、地域コミュニティの場の低下、環境教育の場の喪失等が危惧される。
R7年度取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量化と資源化のため、「志免町ごみ分別アプリ」の登録を推進し、併せて4R(リフューズ:断る、リデュース:減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再資源化する)活動を推進する。 ・志免町集団資源回収団体奨励金交付要綱を改正し、奨励金を増加させ、活動を行いやすい環境を整える。

町が取り組むべきことの達成状況

- 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どおりの成果をあげている
- 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない
- 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない

構成する事務事業(評価対象事業のみ)

番号	事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価		
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度	施策評価での方向性
	担当課	会計区分		R4 決算	R5 決算	R6 予算			
1	ごみ減量化推進事業		特定財源	0	0	0	D	-	D
			一般財源	767	786	952			
			合計	767	786	952	成果・費用とも維持	-	成果・費用とも維持
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	1.25	0.39	0.62			
2	資源回収推進事業		特定財源	0	0	0	A	◎	A
			一般財源	3,737	3,345	4,950			
			合計	3,737	3,345	4,950	成果拡充・費用拡大	◎	成果拡充・費用拡大
			(内 会計年度任用職員人件費)						
生活安全課		一般会計	関与 正職員数(人)	0.15	0.36	0.08			
3	地球温暖化対策事業		特定財源	-	7,148	2,683	A	◎	A
			一般財源	-	0	0			
			合計	-	7,148	2,683	成果拡充・費用拡大	◎	成果拡充・費用拡大
			(内 会計年度任用職員人件費)	-	-	-			
2050年カーボンニュートラルに向けた取組、施策を行う。 【令和5年度新規事業】		一般会計	関与 正職員数(人)	-	0.83	1.02			

町が取り組むべきことを構成する事業の方向性		
ビルド	新規事業の方向性や内容	なし
	拡充事業の方向性や内容	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収推進事業について、活動団体の回収量、回収意欲を増加させるため、志免町集団資源回収団体奨励金交付要綱を改正し奨励金を増加する。 ・地球温暖化対策事業について、温室効果ガスの排出量の削減のため、省エネ・再エネ推進のための補助金制度の創設や、専門知識やノウハウを持つ民間事業者を活用する。 ・『志免町気候変動適応計画』に基づき、適応策として、熱中症対策兼ペットボトル削減に伴う脱炭素をねらい、『マイボトル型のウォーターサーバー（給水スポット）』を庁舎等に設置する。
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし
	縮小事業の方向性や内容	なし
R7年度の町が取り組むべきことの方向性		<input type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input checked="" type="checkbox"/> 維持

14-4 貴重な自然環境を守る	所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 自然環境の保護と自然環境保護活動の促進 35位 / 17位	都市整備課

町が取り組むべきこと①	町内の貴重な緑地を守るため、まとまった緑地を緑地保全林地区に指定します。
主な取り組み状況	・町内の貴重な緑地を守るために緑地保全林地区の指定を行った。一部、私有地についても承諾を得て、指定することができた。
課題	・緑地保全林地区として指定出来ていない私有地がある。
R7年度取り組み方針	・緑地保全林地区未指定地の承諾を得る取り組みを行う。
町が取り組むべきこと②	良好な環境の保護と町民の自然を大切にす意識を高めるため、町民の自然環境保護活動への参加を促進します。
主な取り組み状況	・河川美化活動が規模縮小での開催であったが、多数の参加があった。
課題	なし
R7年度取り組み方針	・積極的にボランティア団体の支援を行う。

その他の取組	
主な取り組み状況	・社会教育課が行う公民館改修工事の木工事部分に対して、森林環境譲与税を活用した。
課題	・志免町では林業を行っている方はいない為、森林環境譲与税を直接活用した事業を行うことが出来ない。
R7年度取り組み方針	・令和7年度より開始する、新生児記念品贈呈事業及び公民館改修工事に森林環境譲与税を活用する。

町が取り組むべきことの達成状況	
<input checked="" type="checkbox"/>	町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どりの成果をあげている
<input type="checkbox"/>	町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない
<input type="checkbox"/>	町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない

事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価		
番号	事務事業の概要 担当課 会計区分	経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度	施策評価での方向性
			R4 決算	R5 決算	R6 予算			
1	片峰山緑地保存事業 緑地保全林地区対象地の緑地が保全されるよう、緑地保全林地区に指定して、緑地の保全と緑化の推進に要する費用の一部を助成する。 都市整備課 一般会計	特定財源	0	0	0	D	-	D 成果・費用とも維持
		一般財源	809	864	891			
		合計	809	864	891			
		(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.11	0.30	0.06			
2	緑地保全会支援事業 緑地保全会が管理する緑地の保全が行いやすくなるよう、緑地の保全のための費用の一部を補助する。 都市整備課 一般会計	特定財源	0	0	0	D	-	D 成果・費用とも維持
		一般財源	825	825	825			
		合計	825	825	825			
		(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.11	0.12	0.05			
3	河川美化活動団体支援事業 河川美化活動団体(クリーンupうみ川実行委員会)が活発に活動できるよう、宇美川河川周辺の美化活動に対して、補助金交付等の支援を行う。 都市整備課 一般会計	特定財源	0	0	0	D	-	D 成果・費用とも維持
		一般財源	7	50	52			
		合計	7	50	52			
		(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.13	0.01	0.15			
4	森林環境譲与税活用事業 木材の利用促進を図るため、木製品の導入又は公共建築物の木造化等により、志免町森林環境譲与税活用計画に基づいた地域木材の積極的活用を行う。 都市整備課 一般会計	特定財源	0	0	2,800	D	-	D 成果・費用とも維持
		一般財源	2	2	7			
		合計	2	2	2,807			
		(内 会計年度任用職員人件費) 関与 正職員数(人)	0.20	0.33	0.18			

町が取り組むべきことを構成する事業の方向性		
ビルド	新規事業の方向性や内容	なし
	拡充事業の方向性や内容	なし
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし
	縮小事業の方向性や内容	なし
R7年度の町が取り組むべきことの方向性		<input type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input checked="" type="checkbox"/> 維持

3. 施策の総括と今後の展開

成果指標の『町の環境衛生について、特に気になることがない町民の割合』と、『町民一人1日当たりのごみ(燃やせるごみ)の排出量』は目標を達成した。引き続き、マナー啓発や美化活動により美しいまちの維持と、ごみを適切に収集し処理するため、継続的に関係施策を展開していく。また、『1年間の資源回収量』と『自然環境保護活動を行っている町民の割合』については、目標を達成できなかった。そのため、地球温暖化対策防止と資源の有効利用をさらに進め、貴重な自然環境を守るため、関係施策を拡充し、取り組んでいく。

さらに、緑地保全事業や河川美化活動の支援事業に取り組み、自然環境の維持及び保全を図り、緑地保全林地区の未指定の土地を指定することにより成果が向上するため、引き続き土地所有者と指定に向けて協議を行う。

4. 施策の進行状況

- 目標に向かって順調に進んでいる
- 目標に向かってある程度順調に進んでいる
- 目標に向かってあまり進んでいない
- 目標に向かって進んでいない

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1014101
事務事業名	北筑昇華苑葬祭場使用料助成事業			担当課	健康課	担当係 健康管理係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計 01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款 04	衛生費
根拠法令条例等	北筑昇華苑組合同規約及び葬祭場使用料の一部負担に関する規程			個別計画	項 01	保健衛生費
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 56 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度			目 01	保健衛生総務費	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 町民	人	46,631	46,588	46,497
事業内容	③手段 (どのようにして)	・葬祭場の使用にかかる経済的な負担が軽減される				
	※実施年度に行った主な活動	3市7町(福岡市、福津市、古賀市、糟屋郡7町)の組合で創設した葬祭場(北筑昇華苑)の使用料金の一部を負担する(大人[10歳以上]40,000円、小人[10歳未満]20,000円、死産児6,000円のうち、その半額を町が負担) ・報告使用料町負担分の支払い(月ごとに納入)				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	町負担分支払い回数	回	目標	12	12	100.0%
				実績	12	12	100.0%
イ	成果	助成件数	件	目標	385	400	99.8%
				実績	454	399	99.8%
ウ	成果	助成率(助成件数/葬祭場使用件数)	%	目標	100.0	100.0	100.0%
				実績	100.0	100.0	100.0%
エ				目標			
エ				実績			
オ				目標			
オ				実績			
カ				目標			
カ				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円)		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	特定財源	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	9,073	8,200	8,173	8,609	
		合計(A)	9,073	8,200	8,173	8,609	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	303	230	148	788	
		トータルコスト(A)+(B)	9,376	8,430	8,321	9,397	
	関与職員数(単位:人)	正職員	0.04	0.03	0.02	0.10	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 昭和45年頃、住民の葬祭場として3市7町(福岡市、福津市、古賀市、糟屋郡)で北筑衛生施設組合を設立し古賀葬祭場を建設。住民の葬祭場使用の負担を軽減するために使用料の一部の補助を昭和56年頃開始。	②事務事業を取り巻く環境の変化 なし	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	-----------------------	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	火葬場使用料の一部を町が負担し、誰にでも公平に訪れる死・葬祭にかかる費用の負担を軽減することは、快適な生活環境の維持に繋がる。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	火葬にかかる費用を町が一部負担することで、美しいまちを維持することができるため妥当である。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	葬儀場使用料を町が一部負担することは妥当である。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	必要とする人が、すべて火葬を行っているため成果向上の余地はない。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	対象は町民全員とすることは適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	使用料の一部を町が負担することは、適切である。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	自己負担額は、北筑昇華苑が使用者から徴収することになったので、業務の効率化は図られた。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	火葬する体数に応じて、助成額が増加する。削減の余地はない。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	国・県からの補助はない。	

分析・検証結果	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など) 葬祭場の使用にあたり、住民の経済的負担を軽減するため、本事業に継続して取り組む。令和6年度からは、北筑昇華苑組合運営事務事業と統合し、事業を実施する。		
		0点	1点	2点		3点	
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c		c	c
		いずれか1点	c	c		c	c
		合計4点	c	c		b	b
		合計5点	c	b		b	a
	合計6点	c	b	a	a		
	a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
		拡充		C	B	A
維持		E	D			
縮小		F				
休廃止		G				
	D	成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1214101	
事務事業名	桜丘下水処理施設跡地管理事業			担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
根拠法令条例等				個別計画	項	02	清掃費
				目	04	下水処理費	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 49 年度より開始			<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度			

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 桜丘下水処理施設跡地	m2	6,173	6,173	6,173
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	適正に管理される				
		苦情や事故などが起こらないように維持管理を行う ・雑草除去、樹木剪定等委託契約事務				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率	
ア	活動	雑草除去、樹木剪定件数	↑	件	目標	3	3	100.0%
					実績	3	3	
イ	成果	雑草、樹木の苦情件数	↓	件	目標	0	0	
					実績	0	0	
ウ					目標			
					実績			
エ					目標			
					実績			
オ					目標			
					実績			
カ					目標			
					実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	1,493	1,550	1,500	1,540	
		合計(A)	1,493	1,550	1,500	1,540	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	845	853	1,063	889	
	トータルコスト(A)+(B)	2,338	2,403	2,564	2,429		
関与職員数(単位:人)		正職員	0.11	0.11	0.11	0.09	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 桜丘団地が開発され、昭和49年から開始。平成23年3月から公共下水道に接続したため処理場を停止した。	②事務事業を取り巻く環境の変化 平成23年度に桜丘終末処理場の解体工事終了し、広場として活用しているが、近隣との境界の樹木等の管理が必要である。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
--	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度低い	事業内容が施設跡地の維持管理であり、上位施策への貢献度は低い。	1	
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			地元住民より、別の用地で使いたい意向があるが、跡地利用として地元との調整が図られれば、普通財産に移管し売却を検討すべきである。
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			町が所有する跡地であり、公共性が高い事業であるため、自治体関与は妥当である。
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	適正に管理しており、近隣等より苦情もないため期待する成果が得られている。	3	
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			施設跡地を適正に管理することが目的であるため、対象は適切である。
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			苦情や事故などが起こらないように、雑草除去、樹木剪定等を行っており適切である。
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	専門業者に委託して行っており効率的である。	3	
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			管理を行うのに、必要最低限の予算であり、適切である。
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			活用できる国や県等の補助金はない。

		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点		
分析・検証結果	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	地元桜丘運営委員会の要望により跡地を子ども広場とし、使用管理運用をお願いしており、町としては、雑草の除草処理を行ったが跡地について地元と協議が整えば、普通財産に移管し売却を検討すべきである。
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
b		課題が少しあり業務の一部見直しが必要					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
D		成果・費用とも維持					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214103	
事務事業名		動物愛護事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係	
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計	
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費	
根拠法令条例等				個別計画		項	01	保健衛生費
						目	07	環境衛生費
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 25 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~ 年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
		㊦ 飼い犬(犬の登録頭数)	頭	2,144	2,299	2,299
		㊧ 地域猫	頭	75	126	126
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・生活環境への被害が起こらない				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	狂犬病の発生を予防し、その蔓延を防止及び撲滅する取組等を行う ・犬の新規登録、注射済みの登録、鑑札と注射済票の発行、犬の転入出及び死亡届の受付、抑留された犬の公示 ・狂犬病集団予防注射の受付事務 ・獣医師会との委託契約事務 ・地域猫活動支援事業による登録団体に対する地域猫の不妊去勢手術券の交付 ・犬猫の糞尿による生活被害に伴う啓発				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率	
ア	活動	狂犬病集団予防注射頭数	頭	目標	400	400	300	47.8%
				実績	204	191		
イ	活動	犬の新規登録数(転入含む)	頭	目標	235	235	300	136.2%
				実績	232	320		
ウ	活動	犬の登録抹消数(転出、死亡、その他)	頭	目標	260	200	200	82.5%
				実績	143	165		
エ	成果	狂犬病予防注射済頭数(個別、集団)	頭	目標	1,400	1,400	1,400	96.4%
				実績	1,364	1,350		
オ	成果	狂犬病予防注射実施率(注射済頭数/登録頭数)	%	目標	70.0	70.0	70.0	83.9%
				実績	63.6	58.7		
カ	成果	地域猫の不妊去勢実施率(手術頭数/地域猫の頭数)	%	目標	75.0	75.0	75.0	94.7%
				実績	60.0	71.0		

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	480	630	202	1,260
財源		その他特定財源	954	1,402	2,456	2,239	
		一般財源	0	0	0	0	
		合計(A)	1,434	2,032	2,658	3,499	2,032
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	3,671	5,968	7,827	7,879	
		トータルコスト(A)+(B)	5,105	8,000	10,485	11,378	
	関与職員数(単位:人)	正職員	0.48	0.77	0.81	0.80	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 狂犬病予防法に基づく事務である。 平成31年4月より志免町地域猫活動支援事業実施要綱を整備したもの。	②事務事業を取り巻く環境の変化 犬の登録頭数は年々減少していて、狂犬病予防注射を受ける割合は、横ばい状態である。 野良猫の無責任なえさやりによる生活環境被害が生じている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定				
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	総合計画において、生活環境被害を軽減させるため、野良猫への無責任なえさやりに対し、適切な指導及び不妊去勢手術を推進するとしており、快適な生活環境の維持につながり貢献度が高い。	3				
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い						
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い						
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	狂犬病予防法において、予防注射が義務となっているが、未接種の犬があり、再通知を送付するなど、成果の向上の余地がある。また野良猫への無責任なえさやりに対し、適切な指導及び不妊去勢手術を推進しているが、繁殖率が高く、追いついていないのが現状で成果の向上 狂犬病予防法、志免町地域猫活動支援事業実施要綱に規定する対象であり、適切である。	2				
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で業務を行っており、内容についても熟知しており、業務の手順、内容については効率的である。	3				
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い						
分析・検証結果			妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
			0点	1点	2点	3点	4月に3日間、町内の公民館を通じ狂犬病予防注射を実施した。野良猫への無責任な餌やりに関しては、直接指導や助言(室内飼、地域猫への移行等)をはじめ、広報紙、環境監視作業員による巡回広報等により啓発を行った。また併せて『猫除けセンサー』の貸出を行い被害軽減を図った。地域猫活動団体に対しては手術券を交付し、活動団体により、不妊去勢手術を実施し、生活環境被害のための取組を行った。地域猫活動支援拡充のため、地域猫活動支援事業実施要綱の改正を行い、活動者の負担軽減を図り、活動を行いやすい環境づくりを行った。	
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c		
		いずれか1点	c	c	c	c		
		合計4点	c	c	b	b		
		合計5点	c	b	b	a		
合計6点		c	b	a	a			
a		業務の内容は適切である						

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)				
		皆減	縮小	維持	拡大					
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A				
		維持		E	D					
		縮小		F			コストの方向性(一般財源・関与職員数)			
		休廃止	G							
D		成果・費用とも維持								

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1214104
事務事業名	環境調査事業			担当課	生活安全課	担当係 生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計 01 一般会計	
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款 04 衛生費	
					項 01 保健衛生費	
					目 08 公害対策費	
根拠法令条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			個別計画		
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 7 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
		㊦ 対象河川調査箇所(宇美川、坂瀬川、井野川)	箇所	9	9	9
		㊧ 不燃物埋立跡地周辺調査地点(水位測定、地下水、水質、発生ガス)	地点	24	24	24
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	汚染状況等がないか確認される				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、廃棄物由来汚水の浸透、浸出水による公共用水域への影響を把握する ・不燃物埋立跡地周辺の調査(年4回、水位測定12地点、地下水水質調査6地点、河川水水質調査2地点、発生ガス調査4地点) ・河川水質調査(年4回、宇美川6箇所、坂瀬川2箇所、井野川1箇所)				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率	
ア 活動	調査回数(河川調査、不燃物埋立跡地周辺調査)	↑	回	目標	4	4	4	100.0%
				実績	4	4		
イ 成果	汚染地点数(河川調査、不燃物埋立跡地周辺調査)	↓	箇所	目標	0	0	0	
				実績	0	0		
ウ				目標				
				実績				
エ				目標				
				実績				
オ				目標				
				実績				
カ				目標				
				実績				

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定国・県支出金、地方債		0	0	0	0
財源 其他特定財源			0	0	0	0	
一般財源			1,065	1,324	1,081	1,328	
合計(A)			1,065	1,324	1,081	1,328	
(内 会計年度任用職員人件費)							
	正職員人件費[按分](B)		762	776	968	1,181	
	トータルコスト(A)+(B)		1,828	2,100	2,048	2,509	
	関与職員数(単位:人)	正職員	0.10	0.10	0.10	0.12	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ ・平成7年9月に焼却灰等の埋め立てが終了、その後、遮水工事を実施した。汚染水の浸出状況を把握するために始められた。 ・平成16年5月、井尻粕屋線が新屋敷から粕屋町の扇橋までの間が開通したことにより、交通量の増大で大気汚染調査を実施したものである。	②事務事業を取り巻く環境の変化 なし	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
--	-----------------------	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、廃棄物由来汚水の浸透、浸出水による公共用水域への影響を図る目的に水質検査を実施し、汚点箇所がないことは、上位施策目指す姿の快適な生活環境の維持につながり、貢献度は高い。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、汚染状況等がないか確認することが必要である。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づくものであるため、自治体で行うものとなっている。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	汚染状態は確認されておらず、期待する成果が得られている。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、対象河川調査箇所と不燃物埋立跡地周辺調査地点を対象とすることは、汚染状況等がないか確認を行う必要があり適切である。 廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、汚染状況等がないか確認を行うために、不燃物埋立跡地周辺の水質調査等は最も有効な手段である。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	専門業者に水質調査等を委託しており、業務手順、内容については、効率的である。 不燃物埋立跡地周辺の調査と河川水質調に必要な最低限なコストとなっており、適切である。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

分析・検証結果		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	不燃物埋立跡地周辺の環境保全を図るため、水質検査等を実施した。汚水地点は確認されておらず、環境保全に寄与した。また、令和5年度は大気汚染に関する相談・苦情・要望はなかった。
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
	a	業務の内容は適切である				

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
	D	成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1214108	
事務事業名	町内清掃事業			担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
根拠法令条例等				個別計画	項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 不明 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度						

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 町民 ⑧ ⑨ ⑩ ・自分たちの手で町をきれいにする意識が向上する	人	46,631	46,588	46,497
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	町民自らの手によってきれいな街にする意識向上を図るため、町内一斉清掃を行う(春と秋の年2回) ・ゴミ集積場の提供、回収業者の手配				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	町内一斉清掃実施数	回	目標	2	2	2
				実績	2	2	
イ	成果	町内一斉清掃で回収したごみの搬入台数	台	目標	571	330	330
				実績	328	339	
ウ	成果	環境美化活動(地域清掃など)に参加した人の割合【町民意識調査】	%	目標	31.6	31.6	31.6
				実績	33.3	28.6	
エ				目標			
エ				実績			
オ				目標			
オ				実績			
カ				目標			
カ				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	2,915	4,015	2,987	4,015	
		合計(A)	2,915	4,015	2,987	4,015	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		3,746	3,956	4,541	5,809	
	トータルコスト(A)+(B)		6,661	7,971	7,528	9,824	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.49	0.51	0.47	0.59	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 自分たちが住む町は自分たちできれいにできるように意識向上が目的で開始された。	②事務事業を取り巻く環境の変化 地域によっては、高齢化が進み作業が負担になってきている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 高齢化が進んでいる町内会では、不燃物選別場跡地への収集運搬が難しくなっているとの声がある。
--	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	自分たちの手で町をきれいにする意識が向上することは、環境美化や環境問題への高い意識をもっていることになり、快適な生活環境の維持と清潔で美しいまちにつながり、総合計画の目指す姿に直結する。	3	
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			総合計画において、自分たちのまちは自分たちできれいにするという、環境美化に対する意識を向上させるとしており、意図は適切である。
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			第6次総合計画において、町が取り組む内容として、町内一斉清掃により、自分たちのまちは自分たちできれいにするという、環境美化に対する意識を向上させることとしている。
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	春・秋の一斉清掃を、予定どおり開催し、期待する成果が得られた。	3	
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			町内一斉清掃は町民全体を対象にしていおり、町民を対象にすることは適切である。
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			日にちを設定し、町民みんなで一斉に清掃を行うことが、環境美化意識向上に寄与するため。
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で行っており、業務手順、内容については、効率的である。	3	
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			町内一斉清掃を実施後に草、泥、木などの処理を行うため必要なコストであり、削減の余地はない。
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			活用できる国や県等の補助金はない

		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点		
分析・検証結果	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	町民だけでなく、企業にも声掛けを行い、町内一斉清掃を実施した。今後も自分たちのまちは自分たちできれいにするという、環境美化に対する意識を向上させたい。
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
	a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D	成果・費用とも維持					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214109
事務事業名		生活環境監視事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	04	衛生費
根拠法令条例等				個別計画	項	02	清掃費
				目	01	清掃総務費	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 13 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 町民 ⑧ ⑨	人	46,631	46,588	46,497
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	・ごみの捨て方や分別、ペットの飼い方などのルール、マナーを守る 不法投棄やごみ分別、ペットの飼い方などの監視、指導及び啓発を行う ・環境監視員の配置(2名) 福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所、粕屋警察署、糟屋地区1市7町で構成される「糟屋地区廃棄物不法処理防止連絡協議会」に参画する ・会議への参加				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	環境監視員配置数	人	目標	2	2	2
				実績	2	2	
イ	活動	環境監視実施日数	日	目標	200	243	243
				実績	243	243	
ウ	成果	不法投棄の回収件数	件	目標	200	150	120
				実績	102	88	
エ	成果	不法投棄の通報対応率(回収件数/通報件数)	%	目標	100.0	100.0	100.0
				実績	100.0	100.0	
オ	活動	協議会出席回数	回	目標	1	1	1
				実績	1	1	
カ	成果	協議会による不法投棄パトロール実施回数	回	目標	30	30	30
				実績	30	30	

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	3,250	3,576	3,454	4,401	
		合計(A)	3,250	3,576	3,454	4,401	
		(内 会計年度任用職員人件費)	(3,163)	(3,489)	(3,454)	(4,401)	
		正職員人件費[按分](B)	1,840	1,859	2,318	2,265	
トータルコスト(A)+(B)			5,090	5,435	5,773	6,666	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.24	0.24	0.24	0.23	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ ・職員の減で事務量に対する職員の負担が増し、事務処理に影響をきたし始めたため、平成13年度から本事業を個人委託し開始した。 ・粕屋地区廃棄物連絡協議会による不法投棄パトロールを行っている。	②事務事業を取り巻く環境の変化 ・ここ数年、野良猫に対する、無責任なえさやりについての苦情が多数寄せられるようになった。また不法投棄、野焼きなど生活環境被害が後を絶たない。 ・廃掃法により事業者などに廃棄物の不法処理・管理を指導している。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 ・野良猫に対する、無責任なえさやりについての苦情が多数町民から寄せられている。
---	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	ごみの捨て方や分別、ペットの飼い方などのルール、マナーを守ってもらうために、不法投棄の回収や、パトロールを行うことは清潔で美しいまちにつながり、上位施策の貢献度は高い。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画の町が取り組むべきことで環境監視員を活用した啓発を行うこととしており、その趣旨に沿っている。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、動物の愛護及び管理に関する法律に基づき町には、啓発など必要な措置を行う必要がある。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	環境監視作業員が、不法投棄のパトロールをしており、苦情等について、素早く対応が出来ている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの分別やペットのマナーなど町民全体に係ることになり、町民を対象にすることは適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	環境監視作業員を配置することは、ごみの捨て方や分別、ペットの飼い方などのルール、マナーを守ることになり、有効な手段である。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	環境監視作業員を配置することで効率的に監視、指導、啓発を行える。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	環境監視作業員を配置する最低限の必要なコストであり、削減する余地はない。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国、県等の補助金はない。	

分析・検証結果	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)		
		0点	1点	2点	3点	環境監視作業員を効果的に活用することで、不法投棄、野焼き、ペットのふん害など生活環境に関する問題に迅速に対応ができ、啓発や指導を行った。	
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c		c
		いずれか1点	c	c	c		c
		合計4点	c	c	b		b
		合計5点	c	b	b		a
	合計6点	c	b	a	a		
	a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
		D	成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業			<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214110
事務事業名		焼却場跡地周辺環境整備事業			担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築		予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する			款	04	衛生費
根拠法令条例等					個別計画	項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input type="checkbox"/> 単年度繰返		年度より開始	<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定(複数年) H 25 年度~ R 9 年度		

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 焼却場跡地周辺町内会 ④ ⑤	団体	7	7	7
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	環境整備が行われる				
	志免町焼却場跡地整備委員会で承認された周辺地域の環境整備を推進するための取組を行う・設置された4公民館の太陽光発電システムの余剰電力料の受入と支払い事務					

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	売電契約件数	件	目標	4	4	100.0%
				実績	4	4	
イ	活動	売電量	kwh	目標	45,000	45,000	90.7%
				実績	43,828	40,818	
ウ	成果	町内会還元金額	千円	目標	1,500	1,500	74.7%
				実績	1,498	1,120	
エ				目標			
オ				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	1,494	1,548	1,116	1,548	
		一般財源	0	0	0	0	
		合計(A)	1,494	1,548	1,116	1,548	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		149	153	191	195	
	トータルコスト(A)+(B)		1,643	1,701	1,307	1,743	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.02	0.02	0.02	0.02	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 平成8年4月13日に締結された協定書に基づき、志免町焼却場跡地整備委員会を設置。	②事務事業を取り巻く環境の変化 委員会より焼却場跡地の周辺整備として、防犯灯LED取替や太陽光発電の設置及び余剰電力の有効利用について要望があった。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 焼却場跡地の周辺整備を行った町内会から好意的意見を頂いた。
--	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	焼却場跡地周辺地域を整備したことにより、住みよい住環境の保全ができており上位施策の貢献度は高い。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	却場跡地周辺地域を整備されることは、焼却場跡地周辺町内会の住みよい住環境の保全ができており、町の目指す快適な生活環境の維持につながり、妥当である。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	焼却場跡地周辺整備であり、町が主体で取り組む内容である。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	志免町焼却場跡地整備委員会で、整備方針に沿った環境整備が行われている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	この事業は周辺環境を整備する事業であるため、焼却場跡地周辺町内会を対象とすることは適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	この事業は周辺環境を整備する事業であるため、焼却場跡地周辺町内会を対象とすることは適切である。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	必要最小限の職員で対応しており、これ以上見直しの余地はない。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	公民館の太陽光発電システムの余剰電力料の受入が特別財源となっており、額をそのまま対象公民館へ還元金という。また、その他のコストについても事務執行する人件費のみであり、これ以上削減の余地はない。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	余剰電力料を特別財源として受け入れている。	

分析・検証結果	妥当性	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	4公民館に設置している、太陽光発電システムの余剰電力料の受入を行い、周辺6町内会に分配を行った。
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
D	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
D		成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報	<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業	事務事業コード	1214111
事務事業名	吉原地域活性化委員会運営事業		担当課	生活安全課
担当係			担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	会計 01 一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する	款 04 衛生費
				項 02 清掃費
				目 01 清掃総務費
根拠法令条例等	吉原地域活性化委員会設置条例		個別計画	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	H 21 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 吉原活性化委員会委員	人	12	12	-
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	・吉原地区の地域活性化に対する意見、要望が出される				
		吉原環境を守る会、吉原町内会、水鉛町内会と締結した浄化センター建設に関する協定書に基づき、吉原地域活性化委員会を設置して、吉原地区およびその周辺のまちづくりの推進を行う ・吉原地域活性化運営委員会で提出された提言に基づき、多目的広場の整備工事				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	委員会開催数	回	目標	1	1	-
				実績	1	1	100.0%
イ	成果	活性化のための意見、要望数(累計)	件	目標	1	1	-
				実績	1	1	100.0%
ウ				目標			
				実績			
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	34,200	15,400	0
財源		その他特定財源	5,463	112,659	113,518	0	
		一般財源	0	845	11,018	0	
		合計(A)	5,463	147,704	139,936	0	117
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		6,041	6,744	9,763	0	
	トータルコスト(A)+(B)		11,504	154,448	149,698	0	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.79	0.87	1.01	0.00	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 吉原環境を守る会・吉原町内会・水鉛町内会と締結された浄化センター建設に関する協定書に基づき、平成21年5月27日より、吉原地域活性化委員会を設置するため協議を開始。	②事務事業を取り巻く環境の変化 吉原地域活性化委員会より提言書が提出され、方向性が確立されている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 吉原地域活性化委員会からは、事業が前に進んだと意見をいただいた。
--	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input type="checkbox"/> 貢献度高い <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	吉原地域活性化委員会設置条例に基づき、吉原地域の活性化のために要望や意見が出されており、その内容が、良好な住環境整備のために寄与されるため、上位施策の目的と合致している。	2
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	吉原地域活性化委員会より提出された提言書を元に事業を進めていくことは、吉原地域の活性化につながるもので妥当である。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	吉原地域活性化委員会設置条例に基づき、委員会の庶務を町が行うこととなっている。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	吉原地域活性化委員会の提言書に基づき、多目的広場の整備工事を行い、期待する成果が得られている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	吉原地域活性化委員会設置条例に基づき、規定する対象である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	吉原地域活性化委員会設置条例に基づき、それに沿った手段である。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	業務手順、内容に見直しの余地はなく、効率的である。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	吉原地域活性化整備を行ううえで、必要なコストとなり削減の余地はない。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	吉原地域活性化整備基金を活用しており、財源は適切である。	

分析・検証結果	妥当性	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	吉原地域活性化委員会からの提言により、吉原地域活性化整備を進めていく中、多目的広場の整備工事が竣工した。吉原地域活性化委員会は提言書の提出による所掌事務の終了。吉原地域活性化基金を全額処分した。この2点より、吉原地域活性化委員会は解散とし、この事業は廃止とする。
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
—	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
—		廃止済				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214112
事務事業名		空き地等草刈事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画 体系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計		
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款		
根拠法令条例等				個別計画			
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 10 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 空き地等の雑草、木の繁茂による苦情があった土地 ④ ⑤ 適正に管理される	件	35	30	30
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	地域からの苦情が出た場合、条例に基づいて土地所有者または管理者に適正に管理するよう依頼を行う ・苦情連絡受付、現場確認、土地所有者確認、土地所有者へ適正管理依頼 ・土地所有者から草刈業者等斡旋の依頼がある場合は、業者を斡旋				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率	
ア	活動	草刈等依頼件数	↓	件	目標	40	40	125.0%
					実績	35	30	
イ	成果	草刈等管理済件数	↑	件	目標	35	35	80.0%
					実績	33	28	
ウ	成果	管理対応率(管理済件数/依頼件数)	↑	%	目標	90.0	90.0	103.7%
					実績	94.1	93.3	
エ					目標			
オ					実績			
カ					目標			
					実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	0	0	0	0	
		合計(A)	0	0	0	0	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		1,914	1,552	1,936	2,070	
	トータルコスト(A)+(B)		1,914	1,552	1,936	2,070	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.25	0.20	0.20	0.21	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 昭和47年12月25日、志免町空き地の環境保全に関する条例を定め、実施している。	②事務事業を取り巻く環境の変化 少しずつではあるが、空き地等に戸建住宅が建設されている一方で、空き家が増加している。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 近隣の住民、町内会長から空き家、空き地以外に、居住されている住宅の庭木についての苦情が増えている。
--	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	雑草の繁茂等により地域から苦情があった土地について、適正に管理されることは、周辺住民の快適な生活環境維持につながり、町の目指す姿につながる	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	志免町空き地の環境保全に関する条例により、空き地が適正に管理されることで、快適な生活環境の維持につながり、条例の目的に沿っている。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、空き地を適正に管理されるように指導及び助言を行う必要があるため。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、指導、助言及び勧告を実施しており、期待する成果が得られている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、規定する対象のため適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	空き地の環境保全に関する条例に基づき、空き地を適正に管理されるように、指導や助言を行うこととなっている。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で業務を行っており、業務手順については、効果効率的に実施している。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	所有者への指導、助言を行う人件費のみであり、必要なコストであり削減余地はない。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国や県等の補助金はない。	

分析・検証結果	妥当性	0点 1点 2点 3点				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		いずれか0点	d	c	c	
いずれか1点	c	c	c	c		
合計4点	c	c	b	b		
合計5点	c	b	b	a		
合計6点	c	b	a	a		
a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
D	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
D		成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214201
事務事業名	宇美町・志免町衛生施設組合運営事業			担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-2	ごみを適切に収集して処理する		款	04	衛生費
根拠法令条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、宇美町・志免町衛生施設組合格約			個別計画	項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 13 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
		㊦ し尿、浄化槽汚泥(搬入量)	t	1,817	1,878	2,000
		㊧ 燃やせないごみ(搬入量)	t	870	858	900
		㊨ 粗大ごみ(搬入量)	t	175	169	180
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・(し尿、浄化槽汚泥)適正に処理される ・(燃やせないごみ、粗大ごみ)適正にリサイクルされる				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	町内で発生したし尿、浄化槽汚泥を適正に処理する施設「宇美・志免浄化センター」と回収した粗大ごみ、燃やせないごみ(5種類:陶器・ガラス・その他、金属類、空き缶・空きびん、ペットボトル、プラスチック製容器包装類)を選別し、リサイクルする施設「宇美・志免リサイクルセンター」を宇美町と運営を行う ・業務委託契約、搬入協議				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率	
ア	活動	宇美・志免浄化センター受入可能日数	↑	日	目標	243	241	241
					実績	243	240	
イ	活動	宇美・志免リサイクルセンター受入可能日数	↑	日	目標	309	306	306
					実績	308	306	
ウ	活動	搬入協議回数	↑	回	目標	4	4	4
					実績	4	4	
エ	成果	し尿、浄化槽汚泥処理量	↑	t	目標	2,000	2,000	2,000
					実績	1,817	1,878	
オ	成果	リサイクルされたごみの量	↑	t	目標	900	900	900
					実績	856	835	
カ					目標			
					実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	190,474	205,514	197,157	194,284	
		合計(A)	190,474	205,514	197,157	194,284	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		1,840	1,628	2,510	3,446	
	トータルコスト(A)+(B)		192,314	207,142	199,667	197,730	
関与職員数(単位:人)	正職員		0.24	0.21	0.26	0.35	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 廃棄物処理法により市町村の事務とすることになった。	②事務事業を取り巻く環境の変化 公共下水道の普及により処理量が減少してきている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	し尿が適正に処理され、燃やせないごみ等が適正にリサイクルされることは、町の公衆衛生、ごみ減量につながるため、上位施策の目指す姿に直結している。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	し尿が適正に処理され、燃やせないごみ等が適正にリサイクルされることは、総合計画で掲げているごみの減量化やリサイクル化を掲げており、取組方針に沿っている。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、自治体の責務となっており町の関与は妥当である。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	し尿、浄化槽汚泥が適切に処理され、また燃やせないごみ・粗大ごみは適正にリサイクルされており、期待する成果が得られている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、し尿、浄化槽汚泥、燃やせないごみ、粗大ごみを対象とすることは適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	宇美町・志免町衛生施設組合規約に基づき、し尿、浄化槽汚泥、燃やせないごみ、粗大ごみを適切に共同処理することとなっている。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	し尿、浄化槽汚泥、燃やせないごみ、粗大ごみを適切に処理することに関し、宇美町と共同経営することで、効率的に効果的に運営ができています。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	宇美町・志免町衛生施設組合規約で定められた、必要なコストであり削減の余地はない。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国、県等の補助金はない。	

分析・検証結果	妥当性	分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)			
		0点	1点	2点	3点
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c
	いずれか1点	c	c	c	c
	合計4点	c	c	b	b
	合計5点	c	b	b	a
	合計6点	c	b	a	a
a	業務の内容は適切である				

し尿、浄化槽汚泥の適切な処理、燃やせないごみ、粗大ごみの適正にリサイクルされ、持続可能な循環型社会の構築のため、効率的、効果的に運営ができた。

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
D	成果・費用とも維持					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業			<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214203
事務事業名		ごみ処理事業			担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築		予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-2	ごみを適切に収集して処理する			款	04	衛生費
						項	02	清掃費
根拠法令条例等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			個別計画	s			
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 29 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 町内から出る可燃ごみ(搬入量)	t	10,676	10,391	10,391
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	適切に収集、運搬、処理される				
		町内から出るごみの収集、運搬、処理を行う ・可燃ごみは篠栗町のごみ燃料化(RDF)施設クリーンパークわかすぎに搬入し、処理 ・不燃ごみは宇美・志免リサイクルセンターに搬入 ・ごみ指定袋(燃やせるごみ、燃やせないごみ)の製作に係る契約事務、ごみ袋の販売 ・糟屋地区1市7町で開催される環境課長会と環境衛生主任者会への参画				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率	
ア	活動	燃やせるごみ収集日数	日	目標	305	306	306	100.0%
				実績	305	306		
イ	活動	燃やせないごみ収集日数	日	目標	283	282	282	100.0%
				実績	283	282		
ウ	成果	ごみ収集率(収集されたごみ量/適正に家庭等から出されたごみ量)	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0%
				実績	100.0	100.0		
エ	成果	1tのごみ処理に係るコスト(年間経費/可燃ごみ量)※参考値	千円	目標	70	70	80	85.7%
				実績	71	80		
オ				目標				
カ				実績				

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
経	財源	その他特定財源	165,662	168,887	163,651	164,634	
費	一般財源		600,303	848,572	680,338	767,277	
	合計(A)		765,966	1,017,459	843,989	931,911	982,548
(内 会計年度任用職員人件費)		(2,303)	(2,223)	(2,294)	(2,830)		
正職員人件費[按分](B)		8,801	7,673	9,667	13,297		
トータルコスト(A)+(B)		774,766	1,025,132	853,656	945,208		
関与職員数(単位:人)		正職員	1.15	0.99	1.00	1.35	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ ・昭和29年から清掃法により、ごみ収集は市町村の固有事務となった。 ・環境課長会等の開始した時期は不明だが、多様化している環境問題に対応するため設置されたものである。	②事務事業を取り巻く環境の変化 マンションや集合住宅の建設に伴う人口増加で、全体的なごみ量の増加に併せて処理費や収集委託料が増加している。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
--	--	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定							
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	適切にごみを収集、運搬、処理されること、近隣市町と環境問題を共有し、その問題解決に取り組むことは、ごみの減量化や清潔で美しいまちにつながり、上位施策の目指す姿の実現に直結する。	3							
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画において、適切に収集、運搬、処理するとしている。								
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律において、ごみを適切に処理することは、町の責務である。								
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	ごみの収集を安定的、継続的に実施しており期待する成果が得られている。	3							
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき、町内から出る可燃ごみ(搬入量)とすることは適切である。								
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、ごみの収集、運搬、処理を行うこととなっている。								
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町内から出るごみの収集、運搬を行うことを許可制で実施しており、安定的に効率的に行っている。	3							
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町内から出るごみの収集、運搬、処理を行うことは安定的に継続的に実施する必要があり、投入コストは適切である。								
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみを適切に収集、運搬、処理を行うにあたり、受益者負担として、ごみ袋の販売収入を財源としており適切である。								
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)						
			0点	1点	2点	3点	町内から出るごみの収集、運搬、処理を可燃ごみは篠栗町のごみ燃料化(RDF)施設クリーンパークわかすぎに搬入し、不燃ごみについては、宇美・志免リサイクルセンターに搬入し、安定的に継続的に行った。				
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c					
		いずれか1点	c	c	c	c					
		合計4点	c	c	b	b					
		合計5点	c	b	b	a					
合計6点		c	b	a	a						
a		業務の内容は適切である									

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)			
		皆減	縮小	維持	拡大				
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)			
	維持	E	D						
	縮小	F							
	休廃止	G							
D		成果・費用とも維持							

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214301
事務事業名		ごみ減量化推進事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-3	地球温暖化防止と資源の有効利用を進める		款	04	衛生費
					項	02	清掃費
					目	01	清掃総務費
根拠法令条例等		資源の有効な利用の促進に関する法律		個別計画			
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 25 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
		町民	人	46,631	46,588	46,497
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	ごみの減量やリサイクルの意識が向上する				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	ごみの分別や減量、リサイクルの意識向上を図る取組を行う ・広報やホームページでの啓発 ・ごみアプリの運用 ・4R活動の啓発、4R活動を行うリサイクル団体支援 ・生ごみ処理容器、ダンボールコンポスト等の販売窓口事務、補助金申請交付事務 ・子どもたちの環境作品展の開催				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	啓発回数(広報等)	回	目標	12	12	100.0%
				実績	12	12	
イ	活動	補助金交付数(生ごみ処理容器、ダンボールコンポスト、生ごみ処理器くたくん)	件	目標	30	20	45.0%
				実績	12	9	
ウ	成果	ごみアプリ登録者数	人	目標	9,000	12,000	109.7%
				実績	9,594	13,161	
エ	成果	町民1人当たりの1日の可燃ごみ排出量	g	目標	626	626	101.9%
				実績	628	614	
オ				目標			
カ				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
費	一般財源		767	955	786	952	
	合計(A)		767	955	786	952	
	(内 会計年度任用職員人件費)						
	正職員人件費[按分](B)		9,563	7,051	3,775	6,112	
	トータルコスト(A)+(B)		10,330	8,006	4,561	7,064	
関与職員数(単位:人)		正職員	1.25	0.91	0.39	0.62	

(4) 環境変化・住民意見等

<p>①事務事業開始のきっかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成4年から、廃食用油を排水しないことで川の浄化につながることから廃油石鹸製造の支援し始めた。 平成8年から町内会の要望もあり、生ごみ処理容器の補助金交付を始めた。 	<p>②事務事業を取り巻く環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生ごみ処理機が普及し、平成10年から生ごみ処理機の補助金交付を始めた。近年、集合住宅に住んでいる人でも手軽に生ごみを堆肥化できるダンボールコンポストを普及させるため、平成19年から補助金交付を始めた。生ごみ処理機は、平成15年から減少傾向であり、平成21年度から補助金を廃止した。 マンションや集合住宅の建設に伴う人口増加で、全体的なごみ量の増加に併せて処理費や収集委託料が増加している。 	<p>③事務事業に対する関係者からの意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民から「生ごみ処理機等の補助制度があり、助かる」という意見がある。 子どもたちの環境作品展を実施でアンケートを行った結果、来場者から好評をいただいた。
---	--	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	ごみの減量化やリサイクル化などの環境負荷の少ない持続可能な循環型社会を構築する、上位施策の目指す姿の実現に直結する。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画に掲げるごみの減量化やリサイクル化などが進む環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の構築には、その意識の向上が必要である。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	資源の有効な利用の促進に関する法律において、再生資源の利用を促進するように努めることが規定されており自治体を取り組む内容である。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	一人あたりのごみの量が昨年度より減少、更なるごみの減量や適正な分別のため、広報紙、ホームページ、ごみ分別アプリで周知啓発に努める。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの減量やリサイクルの意識を向上させることについて、全町民を対象にしているため適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの分別や減量、リサイクルの意識向上を図る取組を行うことは有効な手段である。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で対応しており、ごみの減量やリサイクルの意識を向上させるうえで、効率的に効果的に実施しており、業務手順については適切である。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの分別や減量、リサイクルの意識向上を図る取組を行ううえで、必要なコストであり、削減余地はない。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国、県等の補助金はない。	

分析・検証結果	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)		
		0点	1点	2点	3点	広報紙、ホームページ、ごみ分別アプリにてごみの減量及び資源化について周知啓発を行った。また子どもたちの環境作品展をシーメイトエントランスで行い、大変盛況となった	
	有効性	いずれか0点	d	c	c		c
	効率性	いずれか1点	c	c	c		c
		合計4点	c	c	b		b
		合計5点	c	b	b		a
	合計6点	c	b	a	a		
	a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
		拡充		C	B	A
維持		E	D			
縮小		F				
休廃止		G				
	D	成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1214303	
事務事業名		資源回収推進事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-3	地球温暖化防止と資源の有効利用を進める		款	04	衛生費
根拠法令条例等				資源の有効な利用の促進に関する法律		個別計画	
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 62年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)			年度~	年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	㊦ 町民 ㊧ 集団資源回収を行う団体(登録団体) ㊨	人 団体	46,631 101	46,588 101	46,497 101
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	ごみの減量化と資源の有効活用を図るため、資源回収に関する取組を行う ・資源回収に対する啓発 ・集団資源回収実施報告書の受領、集団資源回収団体への奨励金の交付				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	集団資源回収実施報告書受領数	件	目標	900	900	600
				実績	598	567	
イ	活動	集団資源回収奨励補助金額	千円	目標	5,250	5,250	4,950
				実績	3,693	3,232	
ウ	成果	集団資源回収実施団体数	団体	目標	95	95	70
				実績	59	61	
エ	成果	集団資源回収実施団体率(実施団体数/登録団体数)	%	目標	63.0	63.0	63.0
				実績	58.4	60.4	
オ	成果	古紙及び古布回収量	t	目標	822	822	822
				実績	597	555	
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	3,737	5,250	3,345	4,950	
		合計(A)	3,737	5,250	3,345	4,950	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)	1,152	622	3,478	791		
	トータルコスト(A)+(B)	4,889	5,872	6,823	5,741		
関与職員数(単位:人)		正職員	0.15	0.08	0.36	0.08	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ ごみ減量を推進するために、昭和62年から開始した。	②事務事業を取り巻く環境の変化 回収量については、年々減少傾向にある。その要因として考えられるのは、集団資源回収自体が大きな負担となっている成り手の問題(車出し、人集め、時間をさく等)や買い取り金額の低下に伴う、活動資金の低下による活動の萎縮、町内に設置している古紙回収ボックスの利用、パーパーレスなど様々上げられる。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 集団資源回収実施団体からは、古紙・古布の買取業者の買取単価が落ち込み、労力・手間・時間の割に収入が少なくなり、先行に不安を感じており、労力に見合っておらず、町からの奨励金を増額してほしいと要望が上がっている。
---	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	ごみの減量化と資源の有効利用は、上位施策にも取り組み内容として記載があり、上位施策の目指す姿に直結する。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	資源回収が活発に行われることは、ごみの減量化やリサイクル化につながり、総合計画に掲げるごみの減量化と資源の有効利用を図ることとなり、意図は適切である。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	資源有効利用促進法において、再生資源の利用を促進するように努めることが規定されており自治体が取組む内容である。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	様々な要因(買取金の低下や団体活用の負担増による団体の萎縮、古紙回収ボックスの利用等)により、回収量が減少傾向にある。	2
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	集団資源回収は登録団体にて行っており、この事業において、集団資源回収を行う団体を対象とすることは適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの減量化と資源の有効活用を図るため、資源回収に関する取組を行うことは、有効な手段であるが、町からの奨励金が市場と見合っており、改定の余地がある。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	担当職員にて、集団資源回収団体の奨励金の交付事務を行っており、業務手順や見直し余地についてはなく、効率的に運用している。	2
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	ごみの減量化と資源の有効活用を図るため、資源回収に関する取組を行ううえで、必要なコストであり削減余地はない。それ以上に、奨励金を上げる必要がある。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる国や県等の補助金はない。	

		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点		
分析・検証結果	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	集団資源回収実施団体からは、集団資源回収にあたり、買い取り金額の低下、活動団体の負担の増加等に伴い、先行に不安を感じ、活動自体に意味があるのかと、懸念が生じている。活動者の活動意欲の低下につながると、集団資源回収の制度自体が成り立たず、燃やせるごみの増加、温室効果ガス排出量の増加、地域コミュニティの場の低下、環境教育の場等の喪失につながるため、町からの奨励金の増加等対策が必要と考える。
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
		b	課題が少しあり業務の一部見直しが必要				

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	現在、志免町集団資源回収団体奨励金交付要綱に基づき、活動団体に対し、古紙・古布について6円/kgの奨励金を交付している。目的としては、ごみの減量化と資源の有効利用の推進、地域コミュニティの場、環境教育等である。長年の買取単価の低下等により、活動意欲が低下することは、ごみの増加、温室効果ガス排出量の増加、地域コミュニティの低下、環境教育の場の喪失等、様々な問題が生じ、集団資源回収の制度の根幹を揺るがす問題ととらえる。近隣の自治体と比較しても奨励金の単価が低く、集団資源回収の要綱については、昭和62年に施行され、平成19年度までは8円/kg、平成20年度からは6円/kgに引き下げとなっている。当時は買取単価も高く市場に見合った奨励金と考えるが、現在は買取単価が低く、市場と奨励金との間に乖離がある。よって、要綱を改正し、町からの奨励金を増加することで、この問題が改善されるものと考えられる。
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
						コストの方向性(一般財源・関与職員数)	
						町からの奨励金を増やすことで、一般財源が増加するものの、集団資源回収の制度自体がなくなったり、活動が萎縮されることにより、燃やせるごみの量が増加が懸念される。それにより、ごみ処理事業の負担金が増加することを考えれば、費用対効果の面から、奨励金を増加した方がコスト面からも安価になると考える。	
		A				成果拡充・費用拡大	

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1214306
事務事業名		地球温暖化対策事業		担当課	生活安全課	担当係	生活環境係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-3	地球温暖化防止と資源の有効利用を進める		款	04	衛生費
根拠法令条例等				個別計画	項	02	清掃費
				目	01	清掃総務費	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 R 5 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~ 年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	㊦ 町民 ㊧ 職員 ㊨	人	46,631	46,588	46,497
事業内容	③手段 (どのようにして)	中期目標の2030年、2050年の脱炭素に向け、町民、職員の機運の醸成、意識の向上、行動変容を促す。				
	※実施年度に行った主な活動	・地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定 ・志免東保育園の太陽光発電施設導入、総合公園野球場のLED照明の導入、EV自動車の導入 ・4R運動 ・環境教育 ・地球温暖化対策実行計画(事務事業編)に基づく職員への行動変容への促し				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	町民、事業所に対する脱炭素情報配信	回	目標	1	10	100.0%
				実績	1	1	
イ	活動	職員研修	回	目標	1	2	100.0%
				実績	1	2	
ウ	成果	地球温暖化対策実行計画(区域施策編)における温室効果ガス総排出量(前年度末実績)	t-CO ₂	目標	-	179,131	
				実績	-	-	
エ	成果	地球温暖化対策実行計画(事務事業編)における温室効果ガス総排出量(前年度末実績)	t-CO ₂	目標	-	2,071	81.6%
				実績	-	2,477	
オ				目標			
カ				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円)		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	特定財源	国・県支出金、地方債 その他特定財源	※四捨五入により合計値が合わないことがあります				
経費	特定財源	国・県支出金、地方債			0	0	
		その他特定財源			7,148	2,683	
		一般財源			0	0	
		合計(A)	0	0	7,148	2,683	未定
	(内 会計年度任用職員人件費)						
	正職員人件費[按分](B)				8,029	10,046	
	トータルコスト(A)+(B)		0	0	15,177	12,729	
関与職員数(単位:人)		正職員			0.83	1.02	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 令和2年10月の内閣総理大臣所信表明において、「2050年カーボンニュートラル」を宣言。また、地球温暖化対策推進法に基づき、志免町地球温暖化対策実行計画を策定したもの。	②事務事業を取り巻く環境の変化 近年、国内外で脱炭素化の動きが急速に加速。世界的に脱炭素がトレンドになりつつある。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 脱炭素に関するアンケートを行った結果、地球温暖化対策を進めるうえで、資金の不足、ノウハウの不足等が課題となっている。また町に行ってほしい取組として、補助金等支援制度の充実、対策方法や効果的等の情報提供を求められている。
--	--	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	総合計画において、地球温暖化対策推進法に基づいた、温室効果ガス排出量削減のため、地球温暖化対策を行うこととしており、貢献度が高い。 町民、職員の機運の醸成、意識の向上、行動変容を促すことは、脱炭素を行ううえで大変重要である。 地球温暖化対策推進法に基づき、町で、温室効果ガスの排出量の削減のための総合的かつ計画的な施策を実施することとなっている。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	中期目標の2030年に向かって、志免町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に基づき、令和6年度から地域脱炭素の加速化を図る必要がある。 脱炭素を行うには、職員が率先して取り組み、町民に対し模範を示す必要がある。また町民1人1人の機運の醸成、意識の向上、行動変容が必要となり、適切である。 省エネ・再エネの取組のため適切だが、さらに推進していくため、専門的な知識やあらゆる主体と連携し、これまでにない規模や多様な取り組みが必要であるため、補助金支援制度の創設や専門知識やノウハウをもつ民間事業者の活用が必要である。	2
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員数について見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	限られた人員で行っており、業務手順、内容については、効率的であるが、今後業務が増加する見込みであり、関与職員の増加が必要である。 地球温暖化対策事業を行う上で、必要なコストであり、削減の余地はない。 志免町おうえん基金を活用しており、財源は適切である。	2
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点		
分析・検証結果	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	中期目標の2030年、2050年の脱炭素に向け、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定した。今後のこの計画に基づき、町民・事業所の機運の醸成、意識の向上、行動変容を促す必要がある。今後、これまでにない規模や多様な取り組みが必要であるため、補助金支援制度の創設や専門知識やノウハウをもつ民間事業者の活用が必要であり、専任部署や専任職員が必要であると考ええる。
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
	b	課題が少しあり業務の一部見直しが必要					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大	町民や事業所に対し、省エネ・再エネを推進していく中で、専門的な知識やあらゆる主体と連携し、これまでにない規模や多様な取り組みが必要であると考ええる。そのため、補助金支援制度の創設や専門知識やノウハウをもつ民間事業者の活用が必要であると考え、中長期的対策が必須。その結果温室効果ガスの排出量の削減が期待される。	
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数) カーボンニュートラルを実現するには多額の費用がかかるため、町の取組む優先事項として、積極的に一般財源を投与する必要があると考ええる。またそれに携わる人員についても、これまでにない規模や多様な取り組みが必要であると考え、関与人員を増加、また専任人員が必要と考える。
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	A	成果拡充・費用拡大					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1314101			
事務事業名	道路違法広告物撤去事業			担当課	都市整備課	担当係	都市整備係		
総合計画系	施策	15	快適な都市基盤の整備	予算科目	会計	01	一般会計		
	取り組み方針	15-1	安全で便利な道路環境を整える		款	08	土木費		
根拠法令条例等				個別計画		項目		02	道路橋梁費
実施期間				<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 不明 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度			

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 町道	m	156,728	156,954	157,110
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	福岡県屋外広告物条例に基づき、町内道路の安全通行の妨げになる看板、張り紙等を撤去する ・業務委託契約事務				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	撤去作業実施回数	回	目標	10	5	3
				実績	5	5	
イ	活動	撤去した看板等の数	枚	目標	300	20	18
				実績	18	14	
ウ	成果	違法道路看板等撤去率(撤去数/違法に設置された数)	%	目標	100	100	100
				実績	100	100	
エ				目標			
オ				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	-
費	財源	その他特定財源	0	0	0	-	
		一般財源	396	454	407	-	
		合計(A)	396	454	407	-	
		(内 会計年度任用職員人件費)				-	
		正職員人件費[按分](B)	83	79	70	-	
		トータルコスト(A)+(B)	479	533	477	-	
	関与職員数(単位:人)	正職員	0.01	0.01	0.01	-	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 町内道路の電柱、ガードレール等の看板、張り紙等により、交通標識や案内板が、見えにくくなっており安全な通行が妨げられているため。	②事務事業を取り巻く環境の変化 看板、張り紙等の撤去により、道路の安全な通行ができるようになった。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 定期的に撤去作業をおこなっていることで、道路等の交通の安全が保たれているという意見が寄せられている。
---	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	違法広告物を撤去し、町道が安全通行できるようになることは快適な都市基盤につながる。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	違法広告物を撤去することで道路通行時の視認性を確保できるため適切である。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	道路法、道路交通法、屋外広告物法、福岡県屋外広告物条例に基づき、自治体が主体で取り組むのは妥当である。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	確認できた違法広告物は除去撤去している。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町道を対象施設としているため適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	違法広告物に対して、必要最低限で撤去を行っており、法等に基づいて簡易除却する方法が最も有効な手段である。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	必要最低限で計算しているため適正である。 簡易除却の業務を業者に委託して、効率的に行っている。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	年々減少傾向にあるため妥当な費用の確保が必要である。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	補助金等はないため適切である。	

分析・検証結果	妥当性	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など) 年々、違法広告物数が減少傾向にあるため、今後は予算額や活動の見直しを行っていく。
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	a
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
a		業務の内容は適切である				

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
D	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
D		成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1314103	
事務事業名		緑化推進事業		担当課	都市整備課	担当係	都市整備係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-1	マナー啓発や美化活動により美しいまちを維持する		款	08	土木費
根拠法令条例等				個別計画	項	05	都市計画費
				目	04	緑化推進費	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 不明 年度より開始			<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 町が管理する桜(公園、公共施設以外)	本	560	560	557
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	公園や公共施設以外に植栽された桜(町花)の維持管理(剪定、消毒、周辺草刈)等を行う ・業務委託契約事務 ・桜ライトアップの実施				
		④				
		⑤				
		・健全に管理される(桜の花が咲く)				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	桜(町木)剪定数	本	目標	560	560	557
				実績	560	560	
イ	活動	桜(町木)消毒本数	本	目標	0	0	0
				実績	0	0	
ウ	活動	桜(町木)植栽数	本	目標	3	3	3
				実績	0	0	
エ	活動	ライトアップ実施日数	日	目標	14	14	14
				実績	14	14	
オ	成果	開花率(開花した桜/管理する桜)	%	目標	100	100	100
				実績	100	100	
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
費	一般財源		8,761	10,020	9,255	10,519	
	合計(A)		8,761	10,020	9,255	10,519	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	1,143	382	2,135	415	
		トータルコスト(A)+(B)	9,904	10,402	11,391	10,934	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.15	0.05	0.31	0.05	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 多くの桜の苗木が植樹され、それに伴い維持管理が必要のため。	②事務事業を取り巻く環境の変化 樹木の成長により暗がりができたり、枝葉が近隣の民家等に張り出している場所が増加してきた。また、植樹されて年数が経っており樹木が弱くなってきており枯れかけているものも見受けらせる。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 「落ち葉が雨どいに詰まるので枝葉を落として欲しい」「樹木を間引きして欲しい」など、近隣住民の方からの苦情や要望が増えている。
---	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input type="checkbox"/> 貢献度高い <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	桜(町花)を健全に管理することで、花が咲き、美しいまちの実現に貢献している。	2
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画に掲げる美しいまちの実現につながり、また、花見の時期に桜の花を楽しみたいというニーズがあり妥当である。	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	町の事業として植樹されているため、町が管理を行う必要がある。	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	剪定や消毒など、適正な管理を行っており、期待する成果が得られている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町が管理する桜を対象としているため適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	定期的な剪定や消毒を行うことにより、健全な管理を行っている。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	専門業者に業務委託を行うことで、最小の事務量で事業を実施している。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	消毒については発生した際のスポット対応としており、剪定に関しても必要最低限で実施しているため削減は難しい。	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	桜の維持管理に関する補助等はないため、適切である。	

		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点		
分析・検証結果	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	樹木管理については、樹木管理委託業者と協議を行い最適な方法で管理を行った。また樹木の枯死や住民からの落ち葉の苦情により伐採を実施した。町内全域的に桜の枯込み等が見受けられるため、植替えなども検討する。
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
	a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D	成果・費用とも維持					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1314401	
事務事業名	片峰山緑地保存事業			担当課	都市整備課	担当係	都市整備係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
					款	08	土木費
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る		項	05	都市計画費
					目	04	緑化推進費
根拠法令条例等	都市緑地法、志免町緑地保全と緑化推進に関する条例及び施行規則、志免町緑地保全林地区等保全事業補助金交付要綱			個別計画			
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 59 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度~	年度		

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
		㊦ 緑地保全林地区対象地	m2	43,627	43,627	43,627
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・緑地が保全される				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	緑地保全林地区に指定して、緑地の保全と緑化の推進に要する費用の一部を補助する ・補助金申請の受付、支払				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	補助金申請人数	人	目標	7	7	100.0%
				実績	7	7	
イ	活動	補助金額	千円	目標	423	423	100.0%
				実績	423	423	
ウ	成果	保全林地区指定承諾[補助金交付]面積(民有地)	m2	目標	28,197	28,197	50.1%
				実績	14,120	14,120	
エ	成果	保全林地区指定面積(町有地)	m2	目標	15,430	15,430	100.0%
				実績	15,430	15,430	
オ	成果	保全林地区指定率(保全林指定面積/保全林地区対象面積)	%	目標	100	100	67.7%
				実績	67.7	67.7	
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	809	868	864	891	
		合計(A)	809	868	864	891	868
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)	840	79	2,065	509		
	トータルコスト(A)+(B)	1,649	947	2,929	1,400		
関与職員数(単位:人)	正職員	0.11	0.01	0.30	0.06		

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 都市化を目指した開発による緑地の減少を防ぐため、緑地の保全を行う。	②事務事業を取り巻く環境の変化 保全区域及び周辺地域については特に変わっていない。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	--	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	良好な自然環境を形成している緑地を、緑地保全林地区として指定することで、緑地の適正な保全と緑化の推進を図ることができ、町内の貴重な自然を守ることに貢献している	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	緑地保全と緑化推進に関する条例に基づき行っているため適切である	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	都市緑地法、緑地保全と緑化推進に関する条例及び施行規則、緑地保全林地区等保全事業補助金交付要綱に基づき行うため自治体が主体となることは妥当である	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	未指定の土地の地権者の承諾を得て、指定することにより成果向上出来る	2
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	条例により町が指定した地区で、大規模な緑地であるため	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	保全を行う上で維持管理費用も発生するため補助金の交付を行うことが適切である	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	最低限の従事で行っているため、削減の余地はない。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	条例に基づいた金額のため適切	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる補助等がないため適切	

分析・検証結果	妥当性	0点 1点 2点 3点				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		いずれか0点	d	c	c	
いずれか1点	c	c	c	c		
合計4点	c	c	b	b		
合計5点	c	b	b	a		
合計6点	c	b	a	a		
a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
D	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	D		
	縮小		F			
	休廃止	G				
D		成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1314402	
事務事業名		緑地保全会支援事業		担当課	都市整備課	担当係	都市整備係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る		款	08	土木費
根拠法令条例等		都市緑地法、志免町緑地保全と緑化推進に関する条例及び施行規則		個別計画	項	05	都市計画費
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 59 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度~ 年度			目	04	緑化推進費

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 緑地保全会	団体	4	4	4
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	・管理する緑地の保全が行いやすくなる 神社周辺等のまとまった緑地の保全のための費用の一部の補助を行う ・補助金申請受付、支払				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	補助金交付団体数	団体	目標	4	4	100.0%
				実績	4	4	
イ	成果	補助金額	千円	目標	825	825	100.0%
				実績	825	825	
ウ	成果	保全された緑地面積(補助金対象面積)	m2	目標	19,934	19,934	100.0%
				実績	19,934	19,934	
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	825	825	825	825	
		合計(A)	825	825	825	825	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	840	461	833	415	
	トータルコスト(A)+(B)	1,665	1,286	1,658	1,240		
関与職員数(単位:人)		正職員	0.11	0.06	0.12	0.05	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 都市化を目指した開発による緑地の減少を防ぐため、緑地の保全を行う。 志免町には、古来より神社が4箇所が存在し、地域の方々や町民の憩いの場所として利用されており、この神社内の緑地保全と環境整備を行うための一部負担金として、昭和59年より助成事業を行っている。	②事務事業を取り巻く環境の変化 地域の方々や町民の憩いの場所として利用されており、緑地保全と環境整備を行ってらっている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
---	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	神社周辺の緑地が保全されることで総合計画の貴重な自然環境を守る事につながる	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	緑地保全と緑化推進委関する条例に基づき緑地の保全を行っている為適切である	
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	緑地の適正管理を行ってもらうことが、総合計画の貴重な自然環境を守ることににつながる	
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	成果は順調に推移しており、期待する効果が得られている	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	緑地保全を実施している団体を対象にしており、適切である。	
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	緑地保全のための補助金交付によって緑地管理を行っているため適切である	
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	職員数は必要最小限の人数で取り組んでいる為適切である	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	補助金の減額は適正な緑地管理を行えなくなるため適切である	
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	活用できる補助等はないため適切である	

分析・検証結果	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)					
		0点	1点	2点	3点	今後も継続することにより保全支援をしていきたい				
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c				
		いずれか1点	c	c	c	c				
		合計4点	c	c	b	b				
		合計5点	c	b	b	a				
合計6点		c	b	a	a					
a	業務の内容は適切である									

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)			
		皆減	縮小	維持	拡大				
		拡充		C	B	A			
維持		E	D						
縮小		F			コストの方向性(一般財源・関与職員数)				
休廃止		G							
D	成果・費用とも維持								

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報	<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業	事務事業コード	1314403	
事務事業名	河川美化活動団体支援事業		担当課	都市整備課	
担当係			担当係	都市整備係	
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計 01 一般会計
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る	款	08 土木費
				項	03 河川費
				目	01 河川総務費
根拠法令条例等			個別計画		
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 15 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度~ 年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 河川美化活動団体(クリーンupうみ川実行委員会)	団体	1	1	1
事業内容	③手段 (どのようにして)	宇美川河川周辺の美化活動に対して、補助金の交付等の支援を行う				
	※実施年度に行った主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙掲載による広報活動支援 ・補助金交付事務 ・職員の活動への参加 				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	広報掲載回数	回	目標	1	1	1
				実績	1	1	100.0%
イ	活動	補助金申請件数	件	目標	1	1	1
				実績	1	1	100.0%
ウ	活動	町職員の活動参加人数	人	目標	17	10	2
				実績	9	2	20.0%
エ	成果	河川美化活動実施日数	日	目標	1	1	1
				実績	1	1	100.0%
オ	成果	補助金額	千円	目標	50	50	50
				実績	7	50	100.0%
カ	成果	町民の活動参加人数	人	目標	300	300	35
				実績	50	35	11.7%

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円)		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	特定財源	国・県支出金、地方債	0	0	0	0	
	特定財源	その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	7	52	50	52	
		合計(A)	7	52	50	52	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	992	619	70	1,259	
		トータルコスト(A)+(B)	999	671	120	1,311	
	関与職員数(単位:人)	正職員	0.13	0.08	0.01	0.15	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 平成12年度に町民による「クリーンupうみ川実行委員会」が結成され、河川美化に関する活動が進められる中、平成14年度に町に対して活動補助金の要望があり、平成15年度より補助金を交付している。	②事務事業を取り巻く環境の変化 開始当初と比べ、河川美化活動を通じ協働意識が向上し、さらには、参加者を含む住民の河川愛護意識が感じられる。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 実行委員会からは、「住民、町及び建設協会の協力で、この活動が成り立っている。」との意見がある。
---	--	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定		
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	河川美化団体の活動に参加する町民が増えることで環境美化・環境問題を考えるきっかけとなり、清潔で美しいまちづくりへつながる。	3		
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	河川美化活動を活性化させることで、河川愛護の啓発活動となり、自然環境の保全につながっているため。			
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	町が主体的に支援することで、参加者を向上させ、河川愛護意識の啓発及び自然環境の保全意識を向上させることができるため。			
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	町民の活動参加人数が減少傾向であるが、ボランティア団体を積極的にバックアップし、広報等の媒体を利用したPR活動に協力することで、河川美化活動への参加者増加に期待できるため。	2		
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	志免町内にて活動している河川美化活動団体が1団体であるため。			
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	最も幅広く周知を行うことができる広報等のPR活動に協力しているため。			
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	例年滞りなく事業を実施できているため。	3		
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	団体の活動に係る最低限の予算であるため適切である。			
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町として活用できる補助金等はなし。			
分析・検証結果			分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)			
			河川内の植生の繁茂等により、河川内での作業の安全性に不安が残るため、予定していた河川美化活動が規模縮小での開催となった。今後は河川管理者である福岡県との連携や、実施箇所の検討が必要である。本事業は河川美化活動を通じて、自然環境を保全し、住民の河川愛護意識の向上を目的として実施しているものであるため、引き続き「クリーンupうみ川実行委員会」を積極的に支援していく。			
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c
		いずれか1点	c	c	c	c
		合計4点	c	c	b	b
		合計5点	c	b	b	a
合計6点		c	b	a	a	
a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A
		維持		E	D	
		縮小		F		
		休廃止	G			
		コストの方向性(一般財源・関与職員数)				
		D 成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1314404	
事務事業名	森林環境譲与税活用事業			担当課	都市整備課	担当係	農業振興係
総合計画系	施策	14	快適な生活環境の維持と循環型社会の構築	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	14-4	貴重な自然環境を守る		款	06	農林水産業費
					項	02	林業費
					目	01	林業総務費
根拠法令条例等	森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律			個別計画	志免町森林環境譲与税活用計画		
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 R 元 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度	

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 森林環境譲与税基金	千円	3,276	6,580	5,736
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	・木材利用のために、積極的に基金が活用される。				
		志免町森林環境譲与税活用計画に基づき、木製品の導入又は公共施設の木造化等を促進する。				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	一般会計繰入金額	千円	目標	3,000	6,500	23.8%
				実績	3,000	1,550	
イ	成果	木製品等購入件数	件	目標	0	0	50.0%
				実績	0	0	
ウ	成果	公共施設等の木造化等件数	件	目標	1	2	50.0%
				実績	1	1	
エ				目標			
オ				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	2,800	
		一般財源	2	7	2	7	
		合計(A)	2	7	2	2,807	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		1,529	1,858	2,276	1,513	
	トータルコスト(A)+(B)		1,531	1,865	2,278	4,320	
	関与職員数(単位:人)	正職員	0.20	0.24	0.33	0.18	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ パリ協定の枠組みにおけるわが国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るための地方財源を安定的に確保し、森林関連法令の見直しを踏まえ平成31年度税制改正において、森林環境譲与税が創設された。	②事務事業を取り巻く環境の変化 森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律及び森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律施行規則が平成31年3月に制定された。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 議会及び関係団体からの町の用途についての、要望及び問い合わせがある。
--	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	森林環境譲与税は森林整備及びその促進に関する費用に充てることとされており、貴重な自然環境を守ることに繋がる。	3	
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			法律に基づいた事業であり、法律の使途にあった事業を実施しているため、適切である。
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			法律に基づいた事業であり、自治体が行うことが妥当である。
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	木材利用の推進のために公共施設の木造化や木製品の購入しており、目標は達成している。	3	
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			森林環境譲与税の使途にあった事業のみを対象としており変更の余地はない。
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			森林環境譲与税を活用するために必要な手段であり、適切である。
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	必要最低限の人員で行っており、削減余地がない。	3	
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			森林環境譲与税の使途については、法令で定められているほか、事後公表も義務化されており、適正な執行となっているため削減余地がない。
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			森林環境譲与税を使用しているため、適切である。

		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点		
分析・検証結果	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	公民館改修工事の木工事部分に対して森林環境譲与税を活用した。毎年度継続する事業なので、計画的な事業実施が必要である。
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
	a	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)	
		皆減	縮小	維持	拡大		
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
		維持		E	D		
		縮小		F			
		休廃止	G				
	D	成果・費用とも維持					